



今も昔もしゃれた店舗が立ち並ぶトアロード。かつて、江戸川乱歩と横溝正史が連れ立って歩いたことも

## 「椅子に隠れられるか」

乱歩がデビュー前に谷崎の短篇「金色の死」を読んで感動し、影響を受けたことは自ら認めているが、「谷崎潤一郎伝」をまとめた小谷野敦は逆に、自分が提示したモチーフをより精緻に完成させてゆく乱歩に対して谷崎のほうが「影響の不安」を覚えていたと推測している。晩年、再三対談が企画されながら遂に合意されることなく終わった二人の巨星が、実は若き日にトアロードで擦れ違っていた——その様子を想像するのは愉快しい。

（異人さん）たちが、自宅がある北野町・山本通の山手雑居地とビジネス拠点・元居留地との往復で行き交ったトアロードには、しやれた店舗が立ち並んでいた。昭和七（一九三二）年のクリスマス、竹中郁の出版記念会のために来神した堀辰雄は、短篇『旅の絵』に、「ビル・ファルマシー」エレガ

いだろうか。  
乱歩がデビュー前に谷崎の短篇「金色の死」を読んで感動し、影響を受けたことは自ら認めているが、「谷崎潤一郎伝」をまとめた小谷野敦は逆に、自分が提示したモチーフをより精緻に完成させてゆく乱歩に対して谷崎のほうが「影響の不安」を覚えていたと推測している。晩年、再三対談が企画されながら遂に合意されることなく終わった二人の巨星が、実は若き日にトアロードで擦れ違っていた——その様子を想像するのは愉快しい。

（異人さん）たちが、自宅がある北野町・山本通の山手雑居地とビジネス拠点・元居留地との往復で行き交ったトアロードには、しやれた店舗が立ち並んでいた。昭和七（一九三二）年のクリスマス、竹中郁の出版記念会のために来神した堀辰雄は、短篇『旅の絵』に、「ビル・ファルマシー」エレガ

いだろうか。  
乱歩がデビュー前に谷崎の短篇「金色の死」を読んで感動し、影響を受けたことは自ら認めているが、「谷崎潤一郎伝」をまとめた小谷野敦は逆に、自分が提示したモチーフをより精緻に完成させてゆく乱歩に対して谷崎のほうが「影響の不安」を覚えていたと推測している。晩年、再三対談が企画されながら遂に合意されることなく終わった二人の巨星が、実は若き日にトアロードで擦れ違っていた——その様子を想像するのは愉快しい。

十九歳で芥川賞候補になつた直後に自殺した伝説の作家・久坂葉子もまた、いまの北野ホテルのあたりで暮らした。昭和十七年にはその近くにあつた『コスモポリタン』のハキダメの「国際ホテル」へ俳人の西東三鬼が身一つで出奔ってきて、止宿人になつた。——トアロードを舞台とする縦譚はまだまだ続いてゆく。

（にし・あきお）作家  
第1、3、5火曜日に掲載します

# トアロード文人譚

大正十四（一九二五）年夏、大坂に住んでいた江戸川乱歩は、神戸在住の朋友横溝正史を訪ねてや実証するため、洋家具のせり市を探しに来たのである。

（結局せり市が見つからなく

聞いたものである。何というとさ）

で、横溝君とともに神戸の町を見つけ、私はいきなりその店に入つて行って、「この椅子の中へ入る」といって、こつちはあまり悪く見ていく。そうしたら、この中に入れるだろうかって聞いて、この店はトアロードにあつた。横溝君は後年、こう語つている。

（外人が引き揚げるときも先づて、横溝君は後年、こう語つている。

（外人が引き揚げるときも先づて、横溝君は後年、こう語つている。